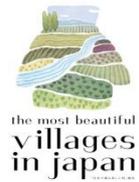


美しいむらづくりネット

No. 6 (平成22年3月30日) 馬瀬地方自然公園づくり委員会

TEL 0576-47-2111



この1年何ができたか

地方自然公園づくり報告会

3月14日、中央公民館にて報告会を実施しました。「自然を生かしたエコツーリズム」と題し、阪南大学前田弘教授による講演と3部会による報告会を実施しました。(内容は以下)

①「魅力を生かした特産品づくりとブランド化」策として、日本一の鮎が食べられる場所を示すのぼり旗を民宿、ホテル、食堂に配布。馬瀬らしい「ケイチャン」開発活動報告。②「馬瀬七里・十里めぐりウォーキングコースづくり」として、数河・中切・堀之内の3コースを設定。堤防散策路の舗装、マップ制作、小学生も参加しての案内標識整備を報告。③「生きた情報発信と体制づくり」策として、地方自然公園をポータルとしたホームページ、広報誌、パンフレット、秋バージョンポスターの制作活動を報告。(報告内容は以上) これらの活動に対し、知事からの「元気なふるさと認定証」を、古田県観光交流推進局長が小池会長に伝達し、2年間の県支援チームの派遣が終了しました。意見交換会では、衰退が進む馬瀬地域の再生に何ができるのか、今後の活動への期待が話し合われました。

統合初の馬瀬小卒業式

新生馬瀬小学校として第1回の卒業式が、3月25日に行われました。卒業生番



元気に卒業を迎えました

号第1号の桂川莉子さんを始め12名の卒業生は、名前を呼ばれると会場いっぱい響き渡る力強い声で「はい!」と返事をして、ステージへ上がっていきました。そして、細田芳充校長から卒業証書を受け取り、ステージから降りるときには、顔を真っ直ぐ上げて、中学校生活や将来に対する自分の願いを一人ひとり堂々と語りました。(写真と文 馬瀬小提供)

「黄砂」降りました

21日(日)、日本海で発達した低気圧の影響により、全国各地で黄砂(こうさ)が観測されました。黄砂とは、中国を中心とした東アジア内陸部の砂漠や乾燥地域の砂塵が、強風を伴う砂嵐などによって上

空に巻き上げられ、東アジアなどの広範囲に飛来し、地上に降り注ぐ気象現象です。馬瀬地域では、普段透き通って見えるはずの野山や田園風景がこの黄砂によってかすみ、透明度を誇る馬瀬川までも濁ってしまいました。黄砂の代表的な発生地としては、西からタクラマカン砂漠(中国西部)、ゴビ砂漠(中国北部・モンゴル南部)、黄土高原(中国中央部)の3か所が挙げられます。これ以外にも多くの乾燥地帯が、黄砂の発生地として考えられています。ほとんどが東アジアですが、中央アジア、中国東北部(旧満州)、モンゴル北部、ロシアの一部も発生地と考えられます。これらは、おおむね年間降水量が500mmを下回る(中には100mm以下も)乾燥地帯で、地表が砂で覆われています。黄砂発生の原因について、発生地を非難する声をよく耳にしますが、本当はどうなのでしょう。前述のように黄砂は乾燥地帯で発生します。今、砂漠化現象により急速に乾燥地帯が広がっています。これは、地球温暖化によるもので、大規模な開発や化石燃料を大量に消費する先進諸国こそ、その原因者ではないでしょうか。天に唾している私たちこそ、原因者であり被害者でもあるのです。

シリーズ「こんにちは、お店紹介」

「旭屋商店のアサちゃん」

今回は、馬瀬の最南端で百年の歴史をもつ旭屋商店を紹介します。明治45年初代大前栄助氏が、菓子酒煙草雑貨店として開業。昭和2年には、木材、炭、薪などの売買も行いました。昭和10年代に入ると西村地区では堰堤工事が行われるなど戦後にかけて店は大繁盛し、地域の経済の発展に中心的な役割を担ってきました。酒類、



店舗に立つアサちゃんこと大前アサさん

油、醤油・味噌などの生活必需品は計り売りの時代が長く続いたようです。この間、3人組の強盗被害に遭うなどの事件もありました。現在は、大前アサさん(4代目)が店をきりもりしています。衣類雑貨、食料品も下呂市場から仕入れており、酒、たばこ、切手はじめ日用雑貨販売が主となっています。市内に大型店舗ができてから利用者はピーク時の4分の1に減ったものの、「元気なうちは続けてゆきたい」とのコメントをいただきました。

編集後記

年度末ギリギリになって滑り込みで6号をお届けすることをお許しください。発行数としては、どうかこれで本年度の目標達成となりました。この2年間、県からの支援チームの皆さんのアドバイスを受けながらやってきましたが、これで一旦終止符となります。馬瀬地域では、町村合併後に急速な人口減少や高齢化が進み、今後数年で高齢化率は県内トップの40%に達することが予測され深刻な状況になっています。馬瀬地方自然公園づくり委員会の活動はこれでよいのか、さらに多くの皆さんとともに考えなければなりません。引き続き22年度の委員の募集が開始されています。皆さま奮ってご応募ください。今後も、むらづくりネットをよろしく願います。(naka)